

岩槻協議会 報

第26号

挨拶

岩槻協議会会長 森 義信



令和四年は、ロシアによるウクライナ侵略、百年に一度の異常気象、コロナ感染症の第七波、年末には第八波に突入、大変な一年でした。そんななか、我々高齢者の平均余命はのび続け、世は百歳時代だそう、喜んでいいのか、いささか複雑な心境です。

百年というタイムスパンは、若い頃にはとつともなく長いもの思われ、でも後期高齢者の仲間入りをした今では、一世紀という時間をたやすく想定できるようになりました。

今から百年前の世界で起きた出来事―第一次世界大戦とロシア革命、スペイン風邪の世界的大流行、ドイツのハイパーインフレーション、日本での関東大震災―を振り返ってみても、案外「最近」起きたようにさえ感じられます。

昨今の世界情勢を見ていると、一世紀前と同じような出来事が次々と起きているようで、「歴史は繰り返す」などといった俗説にも、一理あるのかと思ってしまう。

私たちの身近に起きていることや起こりうることに對して、油断をせず備えをしておくことは必要でしょう。奇しくも「帝都壊滅」をもたらした関東大震災から、今秋は丁度百年目です。

私たちシニア世代に残された年月は少ないけれど、「良く学び良く遊ぶ」をモットーに、心豊かで静かな日々を送りたいものです。幸い、スマートフォンを使えるようになってからは、疑問に思ったことを即座に調べられる、ちよつとした時間でも学べるということ、重宝しています。

最後になりますが、身近にいる人々に感謝しつつ、令和五年が平

和で平穩な年となりますよう、皆さんとともに祈りたいと思います。

連合会の近況について

常任理事会傍聴の記

岩協は二年続けて連合会を休会しておりますこと、岩槻校の皆さんご承知の通りです。但し今年度も連合会常任理事会の傍聴をお願いして認められましたので、岩協からは会長ないし総務部長経験者が手分けして参加しております。

審議等の模様は、岩協に持ち帰つて、議事録に基づいた報告がなされてきました。

連合会では種々の改革が行われ、会務のなかでも質量ともに重責であった、総務部と企画部に専任の理事が置かれました。このことは既に報告済みですので、校友の方々の共通認識となつていふことと思えます。

令和四年度の連合会の新会長は、東浦和校の大田章氏です。氏を中心に、金井専任総務部長と山本専任企画部長とが、文字通り両輪として支えられ、連合会を力強く運営なさつていきます。

従来は企画部担当も総務部担当も、一年ごとに各協議会の持ち回りであったことを考えますと、大変革であつたと言えます。

今年度は新機軸が次々と打ち出されており、「日本伝統芸能公演会」が開催され、千名近くの観客を動員したということで、余剰金が出て市に寄付なさつたと言うことでした。

また各協議会対抗ボウリング大会が、新しい企画として催行されました。

年明けには三年ぶりの文化祭―作品展と芸能発表会―の開催が準備されています。「さいたまマーチ」への参加も呼びかけられています。

さらに、協議会に所属する各期校友会の活動を活性化するためとして、「企画力向上講座」の開設、「出前講師制度」―申請受付中―や「女性部会」の開催などがあります。

最後に、シニアユニバーシティの学長でもある清水勇人さいたま市長に、連合会の「名誉会長」にご就任いただいたということ、です。

岩協の組織改革 第二弾

総務部長 秋山茂美

岩協の弱体化した組織を改めるべく、令和三年の四月から連合会を休会して早二年が過ぎました。令和三年度には、山崎前会長のもとで、企画部の改革がなされ、直ちに実施に移されました。

令和四年度は、前年度に引き続き、四つの期が企画事業の主管となつて、それぞれ講演会・ジャズコンサート・グラウンドゴルフ・ボウリング大会を開催し、累計で三百人に迫る参加者を得ました。

一七期の加入がありました。昨年度加入の一五期が会長職の担当者不在ということで、退会しました。

さて、岩協の改革は今年度も着実に進んでおります。次年度以降の新体制と運営についての基本は、全期参加型の業務別担当制の導入です。どこか一つの期に重圧がかかるような組織ではいけません。みなさんが少しずつ力を出し合つて協議会を運営していく組織にします。

○まず、従来の岩協会長職は、単

独の期で担われてきましたが、今後は「共同代表制」とします。代表は二つの期から選出され、従来の

会長、副会長に代わるものです。・担当業務は、協議会の業務全般を統括し、連帯して任務を分担すること。また、連合会復帰の暁には召集の会議等に参加します。

○総務担当も二つの期から選出され、従来の総務部長職を二つの期で分担します。・担当業務は会議（総会、理事会、会長会）の招集と運営。また校友会各期の理事、代議員、会員数の報告を受理し取りまとめます。さらに総会資料や次年度会議日程、役員名簿等を作成します。

○会計担当も二つの期から選出されます。・担当業務は収支表の作成、会計書類の管理、現金管理、年会費の徴収等です。また決算書の作成（総会資料）、次年度の予算作成等があります。

○事業担当も二つの期から選出されます。・担当業務は各期が主管する事業の計画・実施・報告書の作成までを見届けます。また次年度の事業の

主管と運営を各期に促し、協議会の年間計画書を作成します。・また、赤い羽根共同募金、鷹狩行列、健康ウォーキング等、地域活動の取り纏めを行います。

○広報担当も二つの期から選出されます。・担当業務は「会報」の発行、ホームページの運営、期別活動計画の取り纏めが主な業務です。

以上のような組織改革を円滑に進めるためには、なお幾つかの課題があります。

1. 継続性のある体制が望まれるところから、緩やかな輪番制の採用が妥当です。

2. 担当業務の分担を、各期にどのように割り振るかが、問題です。

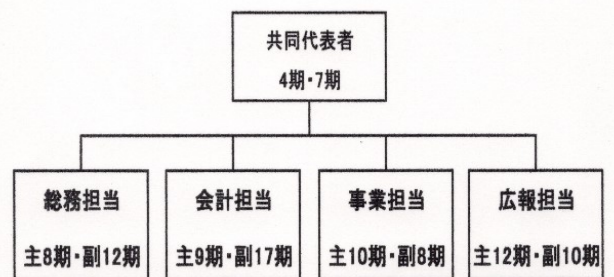
3. 各期には夫々事情があり、一律平等にとは、行かない面があります。そうした事情については協議事項の対象として、できるだけ協力して運営できるように知恵を出し合いたいと思います。

4. なお二つの期で「主担当」、「副担当」を決め、副担当は原則、翌年には主担当となります。

5. 再加入期は一年間主担当免除。

6. 新規加入期は二年間の主担当免除。

免除。



令和5年度の各担当期は上図のとおり

卒業のご挨拶

二期校友会

二期校友会は過日開催した臨時総会で令和五年三月末日をもって岩槻校協議会（岩協）からの卒業（退会）を決議しました。会員の平均年齢が八十二歳を越え、会員の減少や体力、精神面の衰えから、来年度から始まる岩協の新組織運営への協力を支障を来たす懸念が生じたことが卒業の主たる理由として挙げられます。

振り返れば平成十八年にシニアユニバーシティ岩槻校に二期生とし

て入学し、その翌年に岩協に加盟して十六年が経過しました。この間に文化祭をはじめ研修バス旅行、学習講演会、グラウンドゴルフ大会等の活動に数多く参加し、また校友会連合会の文化祭にも積極的に参加してきました。特に平成二十二年度に二期の主導で始まった岩協文化祭には特別の思い入れがあり、その開催回数が十一回にも及んだことには感慨深いものがあります。

私たちは四月から新たな形で活動して行くこととなりますが、これまでに培った「友情と絆」を大切に、今しばらく頑張る所存です。最後に現在進めている岩協の改革が軌道に乗り、益々発展することを心より祈念いたします。長い間、有難うございました。

温かい人が集まる今を大切に

四期 小岩井 久

今、話題になっている和田秀樹先生が考案した「老いを遅らせる十か条」の「あ・か・さ・た・な」です。
 □歩くー歩行は心肺機能や筋肉を鍛え、老いを遠ざける



- 噛むー咬筋を動かすことが脳の刺激に、記憶力もアップ
 - サボるー適当に怠け、疲れをとることも高齢者には大切
 - 食べるー栄養状態を良くし、美味しいものを食べることは脳を活性化する
 - 和むーうまく気持ちを和ませてストレスの解消を
 - 話すー人との楽しい会話は記憶を保つ最高の方法
 - 学ぶー能力を維持している人程長生きという研究結果
 - 役立つー人の役に立つ事で充実感や次への意欲につながる
 - 楽観的であるー何事も明るく前向きに考える事が心身に好影響を及ぼす
 - 笑うー人と接して良く話し良く笑うー人とは福来る
- 上手く出来ている項目には□に✓を入れてみて下さい。幾つありましたか。

大学入学から十五年目を迎えて四期も大樹のように大地にしっかりと根を張り楽しんできました。四期の仲間と活動する事で歩く・和む・話す・学ぶ・役立つ・笑うなどなど良い事が沢山あるのではないのでしょうか。

我が家の家庭菜園

五期 齊田 卓仁

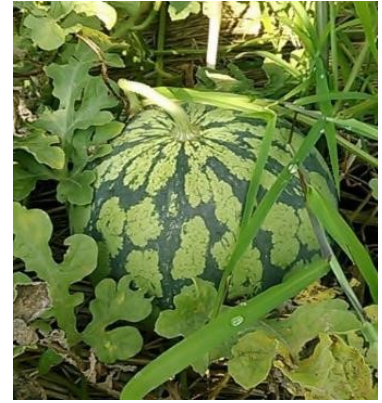
現役では毎日忙しく働いていましたが、六五歳で完全に引退する事になり、毎日が日曜日。さて、何をしようかととなり、たまたま散歩中に、家庭菜園募集の立て札を見つけ、すぐに借りることにしました。

野菜作りは、いろいろな事を解決しなければ、上手く出来ません。
 ○土地(耕し、肥料、石灰等)を手を抜くとうまく出来ません。
 ○場所(種類により連作障害があるので植え付け場所を考えて決める。
 ○種まき、植え付け(種まき時を守らないと上手く育たない。
 苗の植え付けは、ホームセンターでは一番良い時期に発売されているので、この時期に良い苗を選んで購入する。
 ○水やり(乾燥したら水をやらないと上手く育たない。
 ○雑草除去(一番大変)間引、支柱、成長に合わせて管理。
 ○防虫(何もしないと虫に食われてボロボロ。消毒は芽が出た時と若い苗まで、後は目で見て虫を捕まえる。(農薬は出来るだけ使わない)
 ○カラス対策(スイカ、キュウリ、トマト)ネットや糸を張り侵入を防ぐ)
 ○ハト対策(豆類を撒く時防鳥しないと全て食われてしまう。
 家庭菜園を始めて十五年、一番大切なことは、好きでないとできません。いろいろな野菜に挑戦しましたが、成功率は6〜7割、失敗も多くありました。大量に収穫出来るので、実際に食べるのは半分以下、半分は廃棄。でも、上手く出来、食べられることは最高。体が動く

温かい人が集まる今を大切にしながら、八十歳の壁を越え一〇〇歳を目指して、適当にサボりながらも、明るくのびのびと、四期の活動を続けていきたいと思います。

温かい人が集まる今を大切にしながら、八十歳の壁を越え一〇〇歳を目指して、適当にサボりながらも、明るくのびのびと、四期の活動を続けていきたいと思います。

まで頑張ります。



古峯神社の紅葉に魅了されて

七期 山田美沙子

晴天に恵まれた11月7日、七期の仲間二一名を乗せたバスは岩槻駅前を出発した。車窓からの景色は徐々に秋色を濃くし、一条の溪流を右に左にと、またぎながら山間部を走っていく。色づいた枝葉がときどき顔を見せる。

そして、古峯神社に到着した。境内は紅葉の真つ盛りであった。神社は日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が祭神で、天狗は祭神の使いとされ開運を呼ぶとか災難除けとして長く信仰されているとのこと、私も家内安全を祈って参拝した。

その後、神社の一角の宿坊で精進料理を頂いた。紅葉を満喫し、

お腹も満腹になったところで大谷資料館に向かった。

大谷石は旧帝国ホテルにも使われているとガイドさんが説明する。採掘跡地の資料館は階段の連続で右へ左へと曲がりながら地下深く下っていく。その途中に、舞台が幾つも設けられていて、幻想的な石の巨大空間を作り出している。全て石を採掘した跡にできた空間であると思うと、何とも不思議な気持ちになった。

最後に道の駅で土産物を買ひ、予定通り5時に岩槻に到着、解散となった。

シニア大学に入つて十一年が経つとの幹事さんの挨拶。体力に不安を抱える歳になり、紅葉した山の



景色はテレビの中の娯楽となつていた。それが今日は紅葉を目前にして、きれい、きれい、を連発していた。コロナ禍なのに、バスの中では久しぶりにテンション上げておしゃべりし、楽しい一日の終わりを惜しんだ。

十周年記念アルバムを作る

八期 小林章憲

私達八期生は、平成二四年五月大学に入学、平成二七年三月大学院を卒業しました。(入学時八名、卒業時七五名。大学院終了時このままで終わるのは(別れるのは)もつたないという事で、協議会、校友会、クラブ活動等を続ける事とし、現在に至っています。(現在の会員四二名)

私達八期生が大学に入学してから、十年が経ちました。八期生はこれを機に、十周年記念アルバムを作りました。アルバムには、この十年間の楽しく懐かしい思い出を、カラー写真で記録しました。

アルバムはA4五六ページの立派なものです。印刷は外注しました。校友会活動は、外部から講師を招

聘したり、自分達で講師をしたり、各種施設の訪問などです。



クラブ活動を見ると、史跡巡りクラブは、のぼうの城とさきたま古墳から始まり、年に四回位、活動しています。

PCクラブは、当初九名でスタートしました。令和三年、コロナ感染症の蔓延などにより、一時休部になり四年で解散になりました。

グラウンドゴルフ同好会は、週二回、プレーを楽しんでいます。八期のGG大会は年二回位ありますが、GG同好会が主催しており、今までに十八回開催されています。

ハイキングクラブの第一回目は高尾山。第百五回は、立川の国営昭和記念公園です。

年のせいがこの十年で、ハイキングから、ウォーキングに変つてきました。花散策クラブは、第一回目の行田古代蓮の里から始まり、五十回の活動がありました。平成二九年末をもつて解散しました。アルバムは八期会長の手元にあります。ご覧になって下さい。

私の健康管理

第九期 樺木 正直

「新型コロナウイルス」による行動規制のため自主的に巣ごもり状態になつておりましたが、そのような中でも私は自分の健康のために現在十数名の仲間と朝の散歩をしています。

日課として毎朝午前四時に起床して約三十分で支度を整えて家を出ます。途中で仲間と合流してウォーキングコースの見沼用水東縁遊歩道を七キロメートル程を歩きます。

ウォーキングは二十年前から始めましたが、初めの内はお互いに挨拶をする程度でしたが、数年前に、リーダーになる方が仲間を募り新しい友達が出来ました。桜の

季節に七里公園で初会合を開いて花見となつてから今日まで、春は花見をしながら・夏は木陰を選び散策・秋には土手に彼岸花が真っ赤に咲きます。

素晴らしい散歩道です。高齢者のメンバーですが楽しく長続きするように願うところです。

日和田山・物見山ハイキング

十期 八木下久司

私たちハイキングクラブは創部8年を越え、その間、事故もなく無事に活動を続けてきました。

以下は第八二回日和田山・物見山ハイキングの記録です。

日和田山は標高355mの低い山ですが、エベレストに世界で初めて登頂した女性登山家として有名な田部井淳子さんが愛した山としても知られています。

空は晴天。空気はひんやりしている。高麗駅前広場の「天下大将」「地下女將軍」と記された道祖神「將軍標」を8時45分に出発。右に巾着田を見下ろしながら、鹿台橋を渡り日和田山登山口に到着。



ここから間もなく一の鳥居があり、男坂・女坂に分かれる。男坂は岩場、女坂は一般の土の道だ。それぞれ行きたい坂に分かれて進み、二の鳥居で合流した。ここからの眺めがよく、眼下に高麗の市街と巾着田が見える。遠くは大山、丹沢山塊さらに富士山が見える。地元のハイカーが多い。

日和田山から高指山を過ぎたところに、東屋と売店がある。このベンチで早い昼食を食べた。日が当たりポカポカして気持ちがいい。物見山、北向地蔵を目指す。道は

砂利道で、落ち葉に覆われている所が多くなる。木漏れ日の中、おしゃべりをしながら歩くのは、気分がリフレッシュする。北向地蔵は小さなお地蔵さんが三体、祠に鎮座していた。ハイキングの無事をお願いして、五常の滝、武蔵横手駅を指す。余裕をもつて武蔵横手駅に13時50分に着いた。楽しい一日だった。

バス旅行

十一期 迫 雍子

二〇二二年七月十四日、十一期のバス旅行が実施されました。手指の消毒をし、バスの座席は一人で二席を使用、コロナ対策万全の旅が始まりました。目的地は「古代蓮の里」と「渋沢栄一記念館」です。

コロナ禍において感染者が第七波として増えはじめたところでしたが、前年から計画していたこともあり、やつと実現出来ました。「古代蓮の里」の蓮は見事に大輪の花を咲かせ、私たちの眼を楽しませてくれました。

また、約一か月前に植えた田んぼアートの苗はしっかりと成長し、完成途中ながら感動を与えてくれました。世田谷区から移築されたという渋沢栄一にゆかりのある煉瓦建築「誠之堂」と「清風亭」を見学の後「尾高惇忠の生家」へ、係員さんの説明を聴きながら、前年に放送されたNHK大河ドラマの役者さんを頭に浮かべ、色々なシーンを思い出していました。



久しぶりの参加者全員での昼食も地元の食材を意識して出して下さったとか。美味しく頂きました。お腹がいっぱいになったところで、渋沢栄一記念館へ。日本経済の発展に大きく貢献した渋沢栄一の説

明を聴いたあとは、アンドロイドの渋沢栄一とご対面。講義室のドアが開いて一歩足を進めるとあまりにリアルな姿に思わず皆「おーっ」という声。勿論本人には会ったことはありませんが、まるで本物の渋沢栄一が壇上に立っているかのようでした。講義をしながら右をみたり左を見たり、両手をひろげたり。講義の終了後の撮影タイムではバイバイもしてくれました。唯々感心するばかりでした。

残念ながら渋沢栄一の生家は耐震工事のため見学することはできませんでしたが、工事が終わったら是非訪れてみたいと思っています。心配された雨に降られることもなく、無事に岩槻駅まで帰ることができ、有意義な一日を過ごす事が出来ました。

越谷・花田苑散策

十二期 金子 綾子

晩秋の中、好天に恵まれたことに感謝し、私達花散策クラブの一行は、越谷市の「花田苑」を訪れました。

岩槻から、こんなに近い所に綺

麗な日本庭園がある事に驚きました。長屋門から入って眺めて見ると、まるで金沢の兼六園を思わせる石灯籠があり、木の橋や池、茶屋、竹林など四季折々の植物が配置されています。この時期は、さざんかの花や、もみじが鮮やかに紅葉して、とても美しく、訪れた私達を楽しませてくれました。

また琴の音が流れていて一段とゆつたりとした気分させてくれます。そして隣接している「能楽堂」があり能舞台を見学する事が出来ました。

帰り道、久伊豆神社に寄り、そ



れぞれ祈願をして駅まで歩いて戻り、食事を頂き、今度は春の桜の頃に行きたいと話しながら、楽しい時間を過ごし、帰路につきました。

岩槻協議会に加入して

十七期 関口和正

私たち十七期は、昨年大学を卒業し、大学院・専科に進学し、各々の研究を深めてきました。又、諸先輩方の御指導を頂きました。この三月には卒業です。

講義では、人生百年という視点から「健康」「医療費節約」「家族」「経済」、また社会との視点から「多様性」「SDGs」「福祉」「地域貢献」など、これからの自分の生き方を考えるヒントを多くもらいました。

十七期の独自の活動は、「レインボウブリッジを巡る水上バスツアー」「首都圏外郭放水路見学」等のハイキングクラブ主催の行事があり、楽しい歓談と親交を深める場になりました。

岩協主催の「グラウンドゴルフ大会」「ジャズコンサート」「ボウリング



大会」等に少数でしたが参加し、先輩方との交友を深めました。

これからは二年間の学習内容を今後どう社会や身近な人々や自分に還元していくかです。各地域・各家庭・ボランティア活動・仕事等で実践し、充実した生活を送りたいです。また、講義の準備や御指導・御支援を頂いた大学院・専科のスタッフの皆様深く感謝致します。お世話になりました。

今後も岩槻協議会の行事にも参加していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

岩槻協議会事業

学習講演会「鎌倉殿誕生」

講師 関 幸彦 日大教授



でもあつたとされます。

「鎌倉殿誕生」の舞台は、相模・武蔵・上総・下総など坂東の地。ここでは土地支配に根ざす兵どもが割拠し、競合と争乱を繰り返してまいりました。そうした地に、清和源氏の流れをくむ源頼朝という「貴種」が降り立つ。北条時政をはじめとする北条家の人々が、頼朝を担いで、関東の地に割拠する群雄を束ねて、新しい時代を切り開きました。その過程には、猜疑心渦巻く、謀略や謀殺が繰り返られる一面もありました。

令和四年九月九日午後、本丸公民館に校友八十余名が集いました。講演の冒頭で関氏は、鎌倉時代を含む「中世」という時代を「手本なき時代」「選択の時代」と規定します。平城・平安の王朝時代には隋・唐などの中国が手本であり、近代以降は欧米列強が手本であったのに比して、中世にはそれに該当するものがないとされます。また、国内には西に天皇を頂点とする朝廷がある一方、関東には武威を誇る武装集団が割拠する状況のなか、進むべき途の選択を迫られた時代

挙兵から上洛へ、関東武士団は歴史の表舞台に立ち、京に模した都を鎌倉に造営して、ここを拠点とした武家政権を開きます。これが「鎌倉殿」です。鎌倉幕府という呼称は、江戸時代になってからのもので、当時の史料では鎌倉の政権は「鎌倉殿」と記されていました。こうした王朝国家から武家政権への移行は、「志尊」を廃することなく、両者が共存する形での国体の祖型ができあがります。日本国は天皇と将軍という二つの中心をもつ国家として存立し、近世以降の欧米によるアジアへの侵略と植民

地化を、巧みにかわすことができました。校友からの質問にも丁寧にお答えいただくなど、学びたい、気付きたいの多い講演でした。(主管十二期)

岩槻ジャズ演奏会

芸術の秋十月、小春日和の日。岩槻を代表するスイングドールズ(代表 今村信哉)の演奏会が行われた。コロナ感染防止対策のため、入場制限があつたが、89名の方々は静かに開演を待った。

演奏はジャズの名曲「Take the a train」で幕を開けた。軽妙なMCを間に挿みながら「茶色の小瓶」「パプリカ」と演奏が進むにつれ、会場の雰囲気盛り上がりつついった。伸びやかな歌声のソロの歌い手さんにみなさんの拍手が自然に送られ、舞台と会場に和やかな交流の輪が広がった。汗だくになってドラムをたたいていた今村さんは、「お客様の楽しい気な表情や温かい拍手に、メンバーはノリノリで演奏させてもらいました。」と充実感に満ちた表情で語っておられた。アンコールの「どうにも止まらない」の演奏が最高潮に達したところ、



隣の席の方から「『ブラボー！』と言つていい？」と囁かれたが、コロナ下とは言え気持ちと同じであった。

演奏者の皆さんに岩槻協議会から感謝の気持ちを込めて花束が贈られ、演奏会は終演となった。

演奏会が終わって、「元気をもらった。」「初めて聞くジャズの生演奏は、すばらしかった。」等の感想をいただいた。

「心 ウキウキ 岩槻ジャズを楽しもう！」は四期の理事のみなさんを中心、みんなで企画準備・運営を行った。それぞれメンバー一人ひとりの知恵と工夫と行動力を存分に発揮して、見事なハーモニーで演奏会を終えることが出来ました。

(主管 四期)

第二回ボウリング大会開催

第二回ボウリング大会が十一月二十二日、春日部ターキーボウルで33名の参加で開催された。最初



に森会長より開催に当たり「折角の機会であるので大いにみんなで楽しんでください」とのスピーチをいただき、男子15名女子18名が和気あいあいの中、熱戦を繰り広げた。昨年度は上位入賞を女性軍が総なめしたが今回は辛うじて九期の浪江会員が2位に滑り込み、男性の面目を保つた形となった。

我々シニア大学の魅力は、

会員同士が親しく交流の機会を持ち、友情を深めることが根本理

念である。今後もこのような機会を様々な形で行ってゆければ一層より良き事業に発展するものと思われる。

成績は次の通り。(敬称略)

- 優勝 12期 河内 良子
- 準優勝 9期 浪江 信雄
- 第3位 11期 迫 雍子

(主管 九期)

岩協グラウンドゴルフ大会

恒例の岩協グラウンドゴルフ大会が十月二一日岩槻文化公園陸上競技場で開催された。

雨天のため十八日から二二日に変更となったためか、参加者も73名から62名と11名の欠席者が生じてしまった。

参加者の内にはグラウンドゴルフ経験の長い方や初めての方もおり、プレーの進行に支障が生じないよう、また期別や男女による偏りが生じないように、岩協全体が交流できるように等々、組合せに配慮がなされていた。

また、大会進行の裏にはホールポストを貸してくれた方や各期運営委員、実行委員の方々のご協力があり、楽しい大会でした。



成績は次のとおり。(敬称略)

優勝	8期	三井健三	69	1	2
	7期	茂木伸子	78	1	2
二位	9期	滝田和雄	78	1	2
	8期	長田浩子	79	1	2
三位	9期	中澤良行	79	1	2
	10期	渡邊八重子	81	1	1
四位	7期	新関 満	82	1	1
	5期	橋本ヤイ	84	1	2
五位	8期	永盛好男	83	1	2
	8期	萩原マリ子	84	1	1

(主管 八期)

編集後記

会報26号をお送りします。今年度は広報部がなく、一回の発行になりましたが、編集は8期会長及び各期の編集担当者にお願ひしました。